



平成26年7月17日  
第112号  
編集発行  
岐阜県立各務原高等学校  
PTA



### 活気のある PTAを目指して



PTA会長  
檜谷 清美

平成26年度PTA会長を務めさせていただきました。榎谷です。経験、力ともに不足しておりますが、精一杯務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、PTA総会において御挨拶させていただきます。からはや3ヶ月が経過しております。この間すでにPTA行事として大学見学を行いました。平日をまる一日費やす行事であるにもかかわらず、たくさんの方にご参加いただき誠にありがとうございました。見学の様子につきましては別に譲りますが、残念ながらご参加いただけなかった一、二年生の保護者の方は来年、是非ともご参加ください。

PTA会員である全保護者のご意見を反映させたPTA活動ができるよう日々努力をしているのですが、なかなかできていないのが現状です。そこでPTA行事に関わらず、機会があればどんどん学校へ向ういてください。そ

して、私たち役員や先生方にご意見、ご要望をお伝えください。PTA役員は15名と限られた人数ですので、もっともっと様々なお知恵を拝借したいと思っております。高校生ともなると子育ても終盤で、卒業後の進路も様々で、家庭に残る子も親元を離れて生活をする子も出てきます。そうなると家庭以外の子どもの様子を見たり、関わることも少なくなると思います。地元で子ども様子を身近で見られるチャンスを生かしてください。具体的に申し上げますと、9月に文化祭、体育祭があります。そこで子どもたちの頑張る姿をぜひご覧になってください。10月には学校をきれいにする日として校庭を中心に掃除をする活動があります。日頃、子どもたちがお世話になっていることに感謝をして、一緒に学校をきれいにしませんか？11月にはPTA研修会があり、子どもを取り巻く環境に精通した講師の先生をお招きして講演会を開きます。子育ての集大成として、また子どもとの会話の話題作りと一緒に学びませんか？

今年度は行事や活動の内容も決まっておりますが、来年度以降に繋がるような提案や意見をどんどん出して、各務原高校PTAがさらに活気のあるものになるよう、先生と役員が一丸となって頑張りますので、今後とも変わらぬご理解とご支援をお願いいたします。

## 夢や希望をかたちに



校長 杉原 整

保護者の皆様には、日頃から本校の教育活動に格別のご理解とご支援をいただき、心から感謝申し上げます。平成26年度が始まり早く3か月が過ぎました。今、八二〇名の生徒の皆さんは、活気に満ちた学校生活を送っています。

4月末に始まったインターハイ予選では多くのドラマが生まれました。弓道部、ラグビー部、サッカー部の上位入賞や剣道部の活躍。男女バスケットボール部、女子バレーボール部も県大会へ出場しました。同時期に行われた文化系部活動の大会では、囲碁部が団体・個人とも大活躍しました。放送部もあと一步で全国大会でした。これらの成果は、生徒の皆さんの努力と保護者の皆様、OBや地域の皆様のご支援の賜物です。昭和46年に本校が創立されて以来、『開拓者精神』創造・挑戦・協同という校訓を掲げ、文武両道を標榜し日々熱心に取り組んできた成果であるということもできます。女子生徒（3道部）がインターハイ出場を決めたことは、本校創立以来、初めての快挙です。23年ぶりに東海総体出場を果たしたラグビー部の躍進と合わせて、本校の歴

史に新しいページを付け加えてくれました。心から感謝申し上げます。

これらの部活動の活躍は、本校の生徒の皆さんの素直さ、礼儀正しさがその土台にあると思います。「やればできる」という強い思いと保護者の皆さんの熱い声援、地域の皆さんの温かい後押しが生徒の皆さんの思いを次のステージへと導いてくれます。これらの経験は、今、高校生活の中でしか得ることのできない貴重なものです。部活動の意義そのものです。そしてこのことは勉強にもつながります。毎時間の授業の中で小さな努力の積み重ねがやがては大きな成果に結びついていきます。普通科・理数科・英語科それぞれ特色ある取り組みの中で、新しい発見を次の目標につなげることが出来ます。生徒会活動やボランティア活動での体験は、心を豊かに育ててくれます。個々の生徒の「やればできる」という夢や希望を本校教育のあらゆる場面で保証し、育てていくことが、各務原高生の生きる力を育てることになります。この取り組みは私たち職員の喫緊の課題でありその課題解決に向けて日々努力を積み重ねていく必要があります。

結びに、私たち職員一同は、校訓の具現化をめざし全力で取り組めます。生徒の皆さんと夢や希望を共有し、「やればできる」という強い思いを胸に、生徒の皆さんひとりひとりの特長を生かした教育活動に日々邁進してまいります。保護者の皆様の一層のご理解、ご支援をお願いいたします。

## 自分を高めるために



教務主任 山本 幸樹

今年海外で活動する若いスポーツ選手が素晴らしい実績をあげています。オリンピックでは羽生選手が日本人男子で初となるATPランキングトップ10入り。メジャーリーグでは田中投手の大活躍。ゴルフの松山選手は米ツアー初優勝を日本人最年少記録で飾るなど枚挙に遑がありません。ところで、なぜこれほど多くの選手が海外で活躍できたのでしょうか。彼らに共通して

言えることは、日ごろの努力は勿論ですが「いつかオリンピックでメダルを取りたい」「いつかメジャーリーグで活躍したい」などの大きく具体的な目標を早くから掲げてきたこと、つまり、プロのスポーツ選手としての意識・技術・努力に加え、どの選手も「高い志」を持っていったからです。

「高い志」はやる気を引き出すために重要となる要素で、志が高ければ高いほどやる気が引き出せます。また、

いつまでもその志を持ち続けた人は、長く一流選手として活躍できます。ですから「高い志」を常に持ち続けることは自分を高める上で重要なことなのです。

本校の生徒は、現状に満足せず常に高いところに目標を置き、それに向かって努力する。このがおもしろい態度が少し足りないように思えます。何事についても自分で自分の限界を決めているように見受けられます。

「高い志」を持つことは、自分に厳しくしなければならぬ上に、目標が達成できるかどうかもわからないことで、辛く厳しいことかもしれません。しかし、例えば目標を達成できなくてもその努力は、将来自分を支える大きな「自信」や「誇り」となるに違いありません。その「自信」や「誇り」を本校で身につけてもらいたいと思います。

さて、今年度の各務原高校の教育指導の重点は、学力の向上、人間性の向上、体力の向上の3点で、知・徳・体のバランスの取れた人間形成を目標としています。高い志に裏打ちされた生徒一人一人の目標が達成できるように全職員が一丸となって支援してまいります。保護者の皆様方におかれましても御協力・御支援を賜りますようお願いいたします。

## 本校の生徒指導の方針と重点



生徒指導主事  
岩井 浩光

本校はここ数年、次の三つを生徒指導の重点にしています。生徒の皆さんにも目標を持って頂き、人格を向上させることができるよう、意識して生活してほしいと思います。

①集団生活における基本的な生活習慣を身につける。②自他の生命を尊重し、危険を未然に防ぐ能力を身につける。③規範意識を育て、ルール・マナーを守る。

規則正しい生活の第一歩は、時間を意識した行動です。余裕のある登校から始まる一日で、学習や部活動を充実させてくれることを願っています。今年度の始業から5月末までの遅刻者は、一日平均二・四人です。昨年度の同時期は四・〇人で、かなり減少しています。ここ数年では最も少なくなっています。クラス単位でも4月は9クラスが「遅刻ゼロ」を達成しました。5月も6クラスが達成しており、昨年に比べ倍増しています。しかし、5月の連休を境に遅刻者数が増加傾向にあり心配しています。生活のリズムが安定しないと

学習や部活動への取り組みもよくなりませんので、御家庭での生活の様子で気になることがあれば、担任や教育相談の係などへ気軽に相談してください。生命の尊重と危険防止に関しては、

交通講話として交通事故被害者ご遺族の佐藤逸代様を招き、「命の大切さを学ぶ教室」を実施しました。今年度も昨年度に引き続き、交通安全に力を入れ取り組んでいます。4月は自損事故を含め4件の交通事故があり心配しました。5月は2件でしたが、6月に入り6件と急増しました。一つ間違えば命に関わるような事故もありました。本人と相手のどちらが悪くても命に関わるような状況になれば、取り返しがつきません。細心の注意をして、事故に巻き込まれないようにすることが必要です。不審者情報も多く寄せられています。まずは、身の安全、警察への通報に心掛け、被害に遭わないように気をつけて下さい。また、一年生に対して、携帯電話等に関するトラブルを未然に防ぐために情報セキュリティに関する研修も実施しました。

高校生活は学力・体力だけでなく、社会で活躍するための感性や人となりを磨く大切な三年間です。クラスや部活動での生活を通して、仲間と共に、社会で認められるルール・マナーを身につけてくれることを願っています。学校での出来事は、御家庭で話題になりますか。連絡プリントはいつも届いているでしょうか。普段はなかなか

余裕がないかもしれませんが、夏休みにはぜひ学校のことを話題にしてください。

## PTA研修旅行

愛知大学 名古屋学院大学

PTA 評議員

渡邊 まり子

今年度は、保護者46名で愛知大学名古屋キャンパスと名古屋学院大学白鳥学舎へ大学見学に行ってきました。今回は、愛知大学で出会った一人の女子大学生についてお話をさせていただきました。

愛知大学名古屋キャンパスは、名駅から徒歩十分程のところに位置し、二〇一二年に新たに開校したピカピカの文系の大学です。大学案内担当者から、「私が、あれこれ話をするより、現役の学生と質疑応答をする形で話をすすめていきます。」と言われ、紹介された方が各務原高校卒業生で愛知大学経営学部四年のAさんでした。一見、普通の学生さんに見えたのですが、その立ち姿の美しさ、受け答えのすばらしさに大学案内担当者も私たち保護者も感嘆するほどでした。

その質疑応答の中で、私が一番印象に残っているのは、どうして愛知大学を選んだのか、という質問でした。A

さんは、高校に入学した頃から「どうしたら商品が売れるのか」また、「いろんな商品の開発に携わりたい」と考え、マーケティングの分野に興味を持ち始めました。そこで、まず最初に学部を選択し、次に大学を決めました。大学を決めるにあたっては、担任の先生や進路指導の先生と相談をしながら、自分が勉強したいことができる大学の指定校推薦を受けることにしました。指定校推薦を受けるには、成績基準が満たされていないといけません。そのためAさんは、高校一年の時から学年順位上位をキープしていました。また、塾に頼ることなく高校の補習授業等を利用して自分のペースで勉強をしました。Aさんの勉強のモットーは、友達と励まし合いながらすること、得意分野を教え合うこと。そして、唯一、後悔していることは、あまり本や新聞を読まなかったことだそうです。

このように早い段階で自分のやりたいことを見つけ、目標を持ち、それに向かっていくことが、進路選択には必要だと感じました。しかし、我が子を見て、なかなかAさんのようにはいかないなとため息がでます。それでも、Aさんのご両親のように子供を信じ、励まし応援していくことが親の務めなのかと思えました。また、今回の研修旅行を通して、各務原高校卒業生のAさんに出会えたことを嬉しく思いました。

# 二〇一四年度 入試報告



進路指導主事  
森下 範子

## ◎二〇一四年度入試について

全国の概況として、二〇一四年度入試は、センター試験の志願者数が前年度と比べ一・二、六七二人減少し、五六〇、六七二人となりました。五教科七科目の平均点は、文理で明暗が分かれ、数Ⅰ・Aや化学で平均点がアップした一方、国語は大きく難化し、生物も平均点がダウンし、文系の平均点が伸び悩みました。新課程入試を翌年に控え、安全志向がみられ、文低理高・地元志向・資格志向が継続しています。

さて、本校でも全国の動向と同様の傾向が見られました。九割以上の生徒が地元の学校に進学し、就職難を背景として資格系に人気が集まり、特に医療・看護系は、昨年に引き続き大学、

短大、専門学校と全ての学校で合格することが難しいものとなりました。八割以上の生徒が推薦やAO入試を利用し、一般入試が少ないという傾向が続く今日、早期中退や離職を避けるためにも、第一志望の学校を最後まで目指す指導を続けたいと考えております。

## ◎進路指導の方針と重点

進路指導部は、「主体的に進路を選択できる能力や態度を育て、進路実現のための積極的取り組みを支援する。」を基本方針とし、以下の三点を重点としております。

- ①生徒の発達段階に応じたキャリア教育を推進し、高校卒業後も見通した、三年間の全体計画、年間指導計画を改善し、計画的、組織的な進路指導体制を確立する。
- ②一人一人が自己の能力・適性や多様な可能性を理解し、将来の夢や希望の実現に向けて主体的に進路選択ができるよう、情報提供や説明及びそれらに基づいた学習等のガイダンス機能を充実する。
- ③生徒が自ら希望する進路を実現できるよう、「生きる力」の礎となる確かな学力を身に付けるための指導を充実する。

## ◎平成25年度卒業生 入試合格者

		普通科	理数科	英語科	合計
4 大	国公立	7	2	0	9
	私立	137	29	18	184
短 大	国公立	4	0	4	8
	私立	29	5	4	38
専門学校	看護	6	2	0	8
	その他	28	4	9	41
合 計		211	42	35	288

## ◎国公立大学の合格者数

- 富山大学(1) 信州大学(1)  
 岐阜大学(1) 静岡大学(1)  
 佐賀大学(1)  
 岩手県立大学(1) 秋田県立大学(1)  
 岐阜県立看護大学(1)  
 島根県立大学(1)

## ◎主な私立大学の合格者数

- 成蹊大(1) 東海大(1)  
 明治大(1) 立教大(1)  
 東京農大(1) 日本大(1)  
 神奈川大(1) 山梨学院大(1)

- 静岡理工科大(2) 佛教大(1)  
 関西大(1) 立命館大(2)

## 〈東 海〉

- 朝日大(4) 岐阜医療科学大(5)  
 岐阜経済大(2) 岐阜女子大(3)  
 岐阜聖徳学園大(4) 中部学院大(9)  
 東海学院大(2) 愛知大(4)  
 愛知学院大(13) 愛知工業大(5)  
 愛知淑徳大(6) 金城学院大(2)  
 椋山女学院大(8) 大同大(4)  
 中京大(12) 中部大(26)  
 東海学園大(3) 名古屋外大(10)  
 名古屋学院大(8) 名古屋学芸大(3)  
 南山大(1) 日本福祉大(1)  
 名城大(13) など

## ◎主な短大・専門学校の合格者数

- 岐阜市女短(8)  
 大垣女子短(4) 岐阜保健短(1)  
 岐阜聖徳学園短(5) 中部学院短(4)  
 東海学院短(3) 平成医療短(4)  
 修文大短(4) 名古屋短(3)  
 名古屋文化短(3) 南山大学短(2)  
 岐阜県立衛生専(1)  
 岐阜市立看護専(1) 一宮市立看護専(3)  
 名古屋市立中央看護専(1)  
 朝日大学歯科衛生専(2)  
 名古屋医専(1)  
 あじさい看護専(1) など

平成26年度

# 各務原高等学校部活動の成績

(平成25年4月～5月 県大会ベスト8以上)

## 体育系

部名	成績内容等
サッカー部	全国・東海高校総体岐阜県予選 3位
ラグビーフットボール部	全国・東海高校総体岐阜県予選 2位 (東海大会出場)
弓道部	全国・東海高校総体岐阜県予選 男子団体 2位 (東海大会出場) 女子団体 3位 (東海大会出場) 男子個人 3位 田村 昌士 (東海大会出場) 男子個人 5位 堀 至希 (東海大会出場) 女子個人 2位 橋本 佳奈 (全国・東海大会出場)

## 文化系

部名	成績内容等
囲碁部	第38回全国高等学校囲碁選手権岐阜県大会 男子団体 2位 女子団体 2位 団体戦B 3位 女子個人 3位 田中陽向

# 平成26年度 人事異動



英語	田中 由美	①(大垣養老)
理科	石原 貴子	①(関特別支援)
常勤講師	山下 理恵子	⑥(加茂)
学校司書	高木 里美	⑦(岐阜)
実習助手	佐藤 由希子	⑦(関特別支援)
養護教諭	山田 恵	⑩(関)
英語	南木 公吉	⑤(退職)
美術	浅野 順子	⑤(退職)
保体	水谷 貴郎	⑧(各務原西)
保体	森 有史	③(大垣工・全)
理科	小川 陽介	⑥(大垣東)
数学	井上 宜生	③(加茂農林)
地公	山田 英貴	①(岐阜高・教頭)
教諭	日置 史彦	②(退職)
教頭		
教校長		

※○は、本校在職年数(転出先等)

### ▼退職者・転出者

保体	垣下 孝純	(八百津高・非常勤)
理科	梅原 香織	(新任)
非常勤講師	数学 高寺 義朗	(郡上特別支援・校長)
常勤講師	国語 青木 春菜	(長良・常勤)
学校司書	加納 宏美	(県図書館)
実習助手	高橋 莉穂	(新任)
養護教諭	堀 恵子	(岐阜工)
英語	赤坂 敦子	(岐阜城北)
美術	見尾谷 健一	(郡上北)
保体	梅野 剛	(羽島北)
保体	村井 里佳子	(各務野)
理科	宗形 翼	(新任)
理科	久保 二郎	(郡上北)
数学	杉山 修一	(新任)
地公	堀 正人	(関商工・全)
教諭	武藤 芳紀	(大垣東)
教頭	杉原 整	(長良)
校長		

(前任校等)

### ▼転入者

# 部活動報告 剣道部



顧問 山田 英実

剣道部は本校強化部のなかで、少数ですが、女子の活動する唯一の部です。また、体育系の部で男女が一緒に活動するのは、卓球部と剣道部だけです。

K1の選手であるニコラス・ペタスが日本の多くの武道を体験し、その感想を述べていますが、剣道については「何もやっていなくても、上級者と闘うことができる競技である。それは防具があるからだ。」と書いています。防具の考案以来、本来は戦闘の手段であった剣術が、老若男女が親しむことのできるスポーツへと変遷し、勝つこと以上に人間形成を目的としているといった特色を持っています。相手と叩き合うわけですから、喧嘩になったり怪我をしたりします。このため相手に対する礼儀が重んじられ、相手を思いやることから、ガッツポーズは禁止されています。新渡戸稲造著書の「武士道」には日本人の倫理観を支えてきたのは、武士道だと述べています。武道は仏教や儒教の影響を受けてきたため、修行的な要素もあり、開放的な欧米スポー

ツと比べると楽しむ部分に欠けるように思われますが、精神を研ぎ澄まし、相手と同調しながら、全力で闘った時の充実感は、勝敗を超えた喜びがあります。このような特色を持つ剣道を、本校剣道部では「自分が強くなれると信じよう」「仲間も強くなってくれることを信じよう」をスローガンに「人知れず行う努力」を尊重し、部員一人一人が「全国への挑戦」を試みてきました。

今年のインターハイ予選は、男子が岐阜県新人戦と全国選抜大会岐阜県予選でベスト8に進出したため、1回戦はシードされました。2回戦は岐阜高専と対戦し、4対1で圧勝しました。3回戦は大垣商業高校と対戦し、4対1で快勝しました。4回戦は勝てばベスト4ということで東海大会を賭けての試合でした。対戦相手は、女子が清流ぎふ国体以来、国体2連覇を成し遂げ、先に開催された全国選抜大会で全国制覇を成し遂げた麗澤瑞浪高校でした。結果は5対0と刃が立ちませんでした。だが、決勝の関商工戦が同じく5対0で麗澤瑞浪高校が優勝したのを見ても分かるように、麗澤瑞浪高校が群を抜いて強かったことが伺えます。各務原高校の選手の内3名が中学から剣道を始めたのに対し、麗澤は全国中学

校大会の上位入賞者でそろえていることを考えれば、よく善戦してくれたと思います。3大会でベスト8に入ったため、5名が国体候補選手に選出されました。

女子の団体は選抜予選3位でシード校の高山西高校と1回戦で対戦し、4対1で負けましたが、今まで5人の選手がそろわず、3人で出場していたことを考えれば、初めて正規の人数で出場できただけで、充実感を味わうことができました。女子個人戦では一年生の岩田結以が後一步で東海大会というところで惜敗しましたが、来年の活躍が期待されるところです。

結局、今年も全国への挑戦の夢は叶いませんでしたが、岐阜城北高校の野球部を甲子園に導いた太田監督が「一所懸命頑張っても叶わぬ夢はあるけれど、その時にくじけないで努力したことが、後の人生で必ず生かされる」と新聞記事に書いていたように、引退する三年生の諸君は、この敗戦の悔しさをエネルギーとして、今後の進路の実現に向かって、最高の努力をして欲しいと願います。また新チームの諸君が、先輩の夢を引き継ぎ、実現に向けて最大の努力を継続することを心から願って剣道部の活動報告とさせていただきます。



▲インターハイ予選を終えて

◀正月静岡遠征